

**No title available**

**Publication number:** JP49038335  
**Publication date:** 1974-04-10  
**Inventor:**  
**Applicant:**  
**Classification:**  
- International: B60R21/26; B60R21/26;  
- European:  
**Application number:** JP19720083692 19720823  
**Priority number(s):** JP19720083692 19720823

[Report a data error here](#)

Abstract not available for JP49038335

Data supplied from the [esp@cenet](mailto:esp@cenet) database - Worldwide

## 特許願

昭和47年8月23日

特許庁長官 三宅幸夫 様

1. 発明の名称 電気圧力応動制御装置

2. 発明者

住所 東京都港区高輪2丁目1番1号  
氏名 小堀保三郎

3. 特許出願人

郵便番号 108-0001  
住所 東京都港区三田2丁目1番20号  
氏名 (併記) 保氏会社シード・アイ・シー  
代表者 小堀保三郎

4. 添付資料の目録

(1) 明細書 1通  
(2) 図面 1通  
(3) 説明書副本 1通  
(4) ( ) 1通

47-083692

方式審査

## 明細書

## 1. 発明の名称

圧力応動制御装置

## 2. 特許の請求範囲

1. 行走体の外板またはバンパーの定位に応動するピストンを摺動自在に嵌装した非圧縮性流体を収容した流体室に連結する、流体回路に圧力抵抗部材を配設し、走行体に所定以上の減速度が作用したとき上記圧力抵抗部材が応動することにより、流体回路が開放され上記流体回路に嵌装された駆動フランジヤを駆動せしめることを特徴とする圧力応動制御装置。

2. 行走体の外板またはバンパーの定位に応動するピストンを摺動自在に嵌装した非圧縮性流体を収容した流体室に連結した流体回路に所定の強度を有する封板を配設し、走行体に所定以上の減速度が作用したときに流体の圧力応動により封板が破れ流体回路が開放されるようとしたことを特徴とする特許請求を記す。

## ⑯ 日本国特許庁

## 公開特許公報

⑮ 特開昭 49-38335

⑯ 公開日 昭49.(1974)4.10

⑰ 特願昭 47-083692

⑯ 出願日 昭47.(1972)8.23

審査請求 未請求 (全3頁)

庁内整理番号

⑯ 日本分類

6774 36 80 K2  
6600 36 80 B1

## 載の圧力応動制御装置

## 3. 発明の詳細な説明

1. 行走体の衝突事故に於ける衝撃の発生は外板またはバンパーの接触を第一歩とするものである。

この接触にて起る外板またはバンパーの定位をピストンを摺動自在に嵌装した非圧縮性流体を収容した流体室の流体回路に嵌装された駆動フランジヤの応動は極めて敏感である。

2. 駆動フランジヤの作用は走行体に所定以上の減速度が作用したときに於いてのみ上記の駆動フランジヤが駆動する構造のものでないと安全装置の機能は完全とはいえない。

流体回路と駆動フランジヤを連結した接点に所定以上の圧力が加えられたとき流体回路が開放されるような開閉装置を設け液圧の制御を行う必要がある。

本発明はこの開閉装置として液圧に対する抵抗部材例えば開閉扉の支持にバネの応力を用い所定以上の液圧が上記の開閉扉を支持する。

バネの応力を超えたとき上記のバネに支持された扉が開き流体回路が開放され荷重の伝導により駆動的に連結されたフランジヤが駆動するものである。

2. 荷重に対する抵抗節材として封板を用いるとともに考えられる。

封板は荷重以上の減速度が作用したときピストンの運動にて封板の所定の強度を超える荷重にて封板が破れ、駆動フランジヤを嵌装した流体回路が開放されるものである。

非圧縮性荷重応動機器が単なる圧力応動の機構であるのに対し圧力応動に一定の基準を設けて作動を制御し、所定の減速度が作用したときに於いてのみ流体の伝導が行われことを必換とする非圧縮性機器の開発である。

#### 4. 図面の簡単な説明

第1図は自動車の衝突時に起る二次衝突から乗員を保護する安全装置に本発明の圧力応動制御装置を応用した配管の一例で、不作動時の側面を示し、(1)は自動車の車体、(2)は圧力応動制

示し、(3)は封板部上の縫で既に示す通り内の一  
部が欠けた状態で設けられていて荷重により封  
板部は構造の部分だけが破断し、(4)の部分によ  
つて元の附近に接続される。第2図は封板部の  
側面の詳細を示す。第3図は第2図の状態から  
バンパー(5)の圧力により封板部が破れて圧力応  
動制御装置が作動した状態を示す。

特許出願人 株式会社ジー・アイ・シー

代表者 小林 保三郎

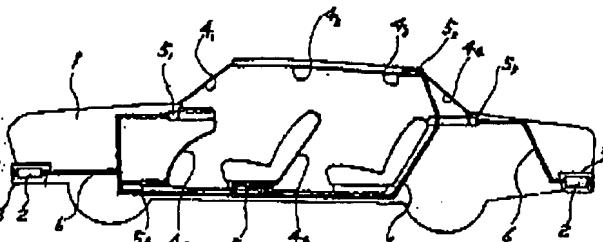
特開昭42-32335 力  
御装置、(1)はバンパー、(2)は安全装置  
(バックリング弹性体)、(3)は安全装置  
(バネ)、(4)は安全装置(バネ)、(5)を駆動するフランジヤ、(6)は  
流体回路の配管である。第3図は衝突時(第1  
図の圧力応動制御装置(2)により、安全装置(3)(4)  
が作動した状態を示す。

第4図は圧力応動制御装置(2)の詳細を示す不  
作動時の断面図で(1)は受圧部、(2)はピストン、  
(3)は筒、(4)は筒(3)の回転軸、(5)は回転軸(4)に  
接されたバネ、(6)は流体室、(7)はフランジヤ、  
(8)はフランジヤ(7)に固定されたピストン、(9)は  
マスク、(10)は流体で、(11)、(12)は回転軸(4)及びバ  
ネ(5)は圧力抵抗節材である。第5図は第4図の  
(1)の断面を示す。

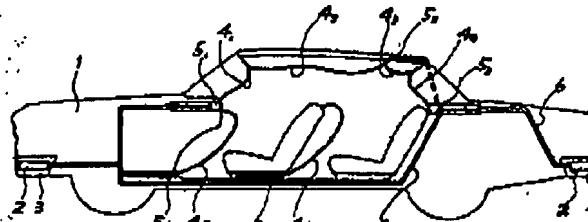
第6図は第3図の状態からバンパー(5)の圧力に  
より部(4)が作動した状態を示す。

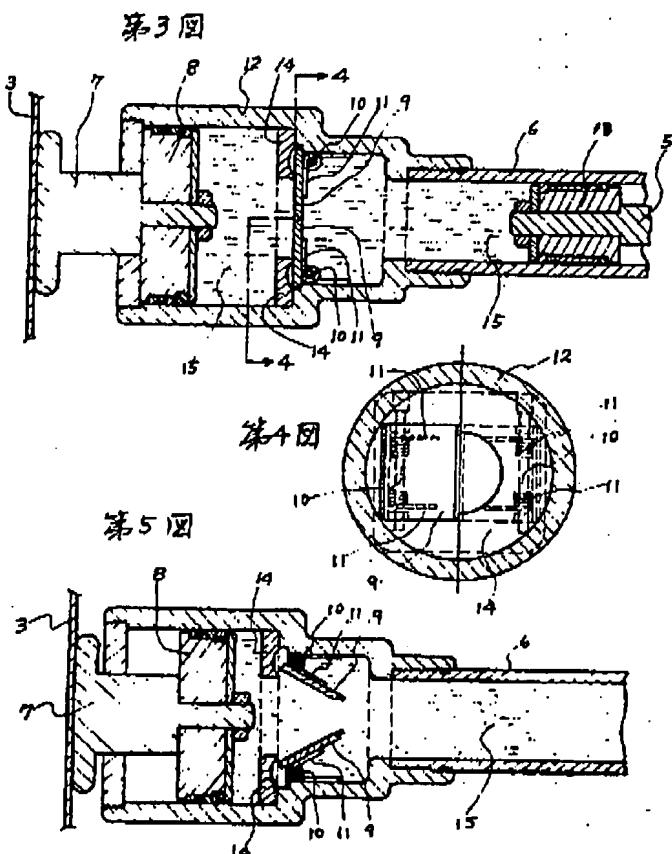
第7図は圧力抵抗節材として封板部を使用し  
た例で圧力応動制御装置の不作動時の断面を示す  
部(3)は封板部を固定するためのリングネジ、(4)は  
流体室である。第8図は第7図の(1)の断面を示す。

第1図



第2図





少 級 楊 正 育

昭和49年2月26日

# 特許申請前 三 宝 宝 去 教

1. 小作の表示 昭和 47 年告許第 0850924

2. 準明の名称 圧力応動制御装置

3. 極正をする者

小作との関係 特許出願人

住所(居所) 東京都港区三田一丁目 11 号 30 号

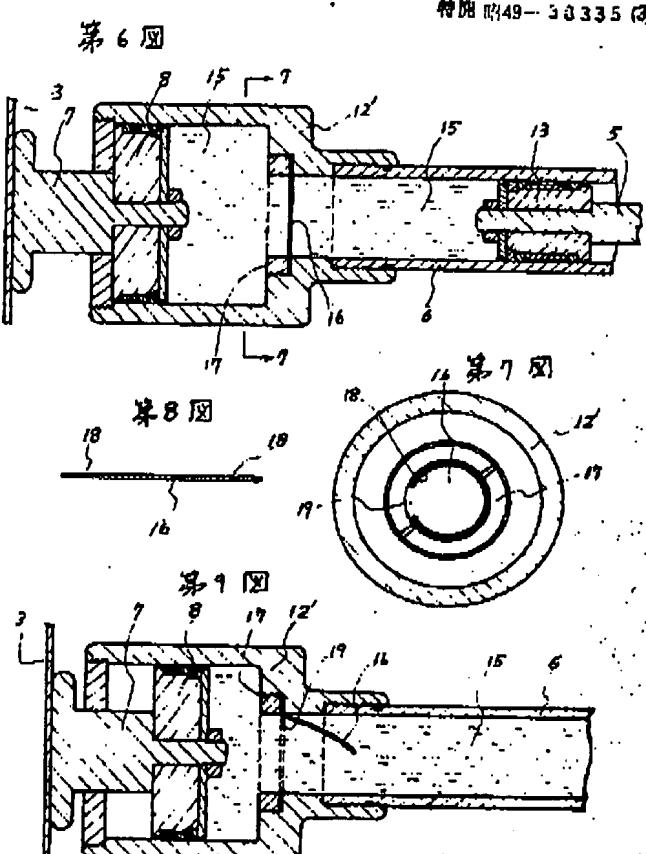
氏名(名称) 株式会社 シー・アイ・シー

代表者 小堀 保三郎

4. 極正をする物件名 旗艦

5. 極正の内容

以下を次の如く補正する。



特許権 (特許法第89条ただし  
書の規定による特許出願)

昭和 47 年 8 月 24 日

新编中医临床家

1. 発明の名称 **圧力応動剝離装置**

2. 特許請求の範囲に記載された発明の数 **2**

3. 発明者

住所(店舗) **東京都港区高輪3丁目1番15号  
第一生命伊皿子アパート**

氏名 **小林 保三郎**

4. 特許出願人

登録番号 **308**

住所(店舗) **東京都港区三田4丁目3-1番8-10号**

氏名(名称) **株式会社ジー・アイ・シー**

5. 部付書類の目録

(1) 明細書	1 頃
(4) 図面	1 頃
(6) 資料原本	1 頃